

InPeria

クラウド時代の文書制作システム
「インペリア」の紹介

XML
Webクラウド
自動組版
電子書籍

会社紹介



名 称 倉敷印刷株式会社
 所在地 本社・工場
 〒130-0013東京都墨田区錦糸4-16-17
 TEL 03-6658-0031(代表)
 FAX 03-6658-0032

飯田橋営業所
 〒102-0072東京都千代田区飯田橋3-7-12
 ケーピービル
 TEL 03-3264-0031(代表)
 FAX 03-3264-0032

創 業 1963年(昭和38年)4月
 代表取締役 難波 隆



- 1963年4月 千代田区飯田橋にて創立
- 1968年2月 倉敷印刷株式会社に組織を変更
- 1984年4月 日本語及び中国語電算写植を導入
- 1987年5月 事業拡大のため本社・工場を江東区森下に移転
- 1995年4月 Macintosh DTP 導入
- 1999年3月 千代田区飯田橋に営業所を開設
- 1999年5月 本社・工場に菊全判 CTP を導入
- 1999年7月 飯田橋営業所にてオンデマンド印刷を開始
- 2002年10月 XML データベースサービスを開始
- 2002年10月 飯田橋営業所にカードキョテック導入
- 2003年9月 XML を利用した「名刺管理システム」一式納入
- 2003年12月 XML を利用した「Web 校正システム」一式納入
- 2004年9月 本社・工場を墨田区錦糸に移転
- 2005年5月 四六全版印刷機を導入
- 2005年7月 「KIPI」システム開発
- 2006年7月 携帯カタログシステム「POTECA」開発
- 2008年4月 「BeeSmart」開発

はじめに

今出版を取り巻く環境は、かつてない速度でめまぐるしく変化しています。
その中で重要だと思われる要素技術について、3つのキーワードが挙げられます。



XML

出版業界ではXML黎明期のころから、出版物をXMLコンテンツへと移行する取り組みがなされてきました。しかしXMLのメリットを享受しているのはごく一部に過ぎません。出版物を思うようにXML化できず、ワンソース・マルチユースを用いた多角的な展開に移行できない状況が続いています。

電子書籍

自動組版

XML

近年目覚ましい勢いで普及している電子書籍は、新しい書籍の形を切り開く期待を負う一方で、さまざまなデータ形式や販売方式が乱立し、どこから手を付けたらよいのか分からない状態にあります。

電子書籍

自動組版

XML

コスト削減が進む中、従来のDTPによるワークフローでは限界になってきました。そこで注目されるのが自動組版です。しかし自動組版は非常に高価な専用システムの構築が必要で、敷居が高く大規模な名簿などに利用方法が限られているのが現状です。

電子書籍

自動組版

InPeriaを導入することでこれらの問題を解決できます

・XMLの導入支援

XMLを意識しなくても、あらかじめ決められた入力フォームにデータを記入することで、XMLデータベースの構築が自動的に行われます。

・電子書籍への変換

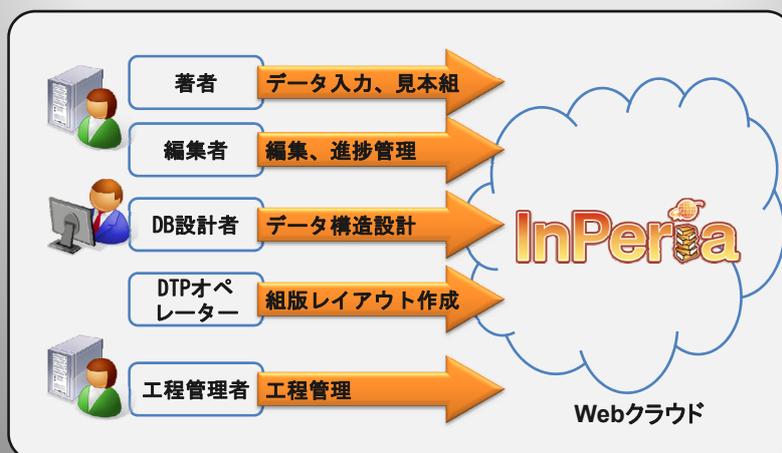
変換テンプレートを基にして、保存したXMLデータから電子書籍データに変換できます。将来さまざまな電子書籍フォーマットが登場しても、変換テンプレートを入れ替えば、蓄積されたXMLデータベースに手を加えず新しいフォーマットに対応できます。

・自動組版

レイアウトを定義した変換テンプレートを作成しておけば、XMLデータから自動的に組版を開始します。レイアウトの情報はXHTMLとCSSで記述されているため、Webデザインの基礎的な知識があれば組版スタイルを修正できます。

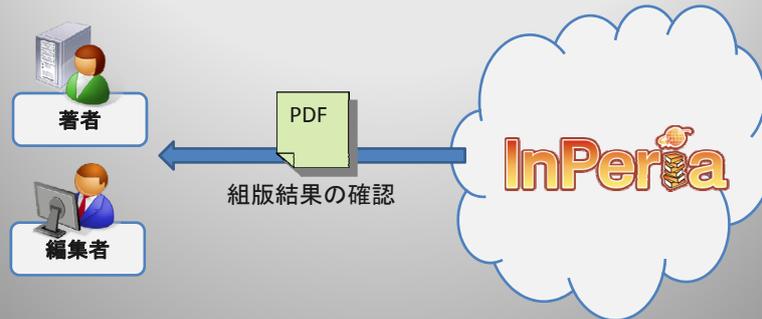
概要

Webブラウザを介してInPeriaサーバーに接続し、データの入力、組版スタイルの作成、自動組版、工程管理など、全ての操作をインターネットで行えます。



組版の効率化

初めに組版のルールを定義しておくことで自動的に組版が行われます。
著者や編集者が文書をチェックするたびに、InPeriaが自動組版した結果をその場で閲覧できます。



いつでも組版の仕上がりを確認できるので、高い品質を維持した出版物を制作することができます。

ワークフローの改善

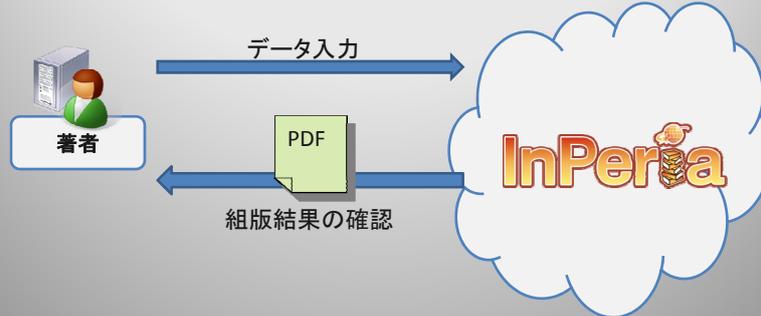
従来のDTPでは紙の原稿やメールを使って、著者、編集者、組版オペレーターのやりとりを行っていました。それぞれのデータはみなバラバラに保管され、繰り返し校正している間に、著者と組版オペレーターが持っているデータが合わなくなったり、煩雑なデータ管理作業が必要でした。

InPeriaでは著者が原稿を入力する段階からすべてのデータが一元管理されるため、データの不整合が生じることはなくなります。またすべてWeb上での操作で完結するため、物理的な配送の時間などに煩わされることなく、効率的な制作が可能です。

ワークフローの改善(著者編)

著者はデータ入力画面から直接組版結果を確認します。

著者が自分で組み上がりの体裁をチェックできるため、図が抜けていたり校正した内容がデータに反映されていないなどの人的ミス減らすことができます。

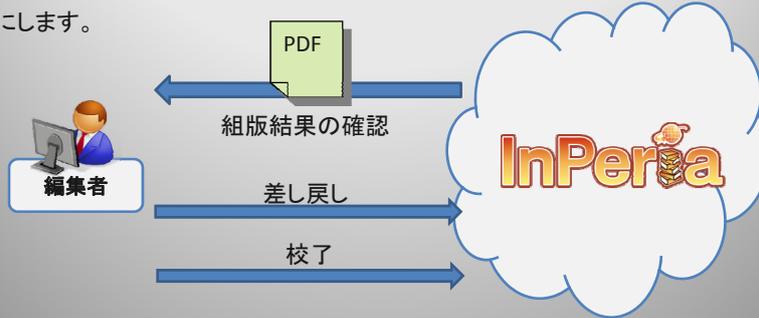


データの入力が完了したら、「校正依頼」することで編集者に通知が届きます。編集者は内容を確認し、問題があれば「差し戻し」の通知が著者に届きます。

ワークフローの改善(著者編)

ワークフローの改善(編集者編)

編集者は著者の原稿が完了すると「校正依頼」通知を受け取ります。その後、組版結果を確認して校正します。赤字が入れば「差し戻し」することで自動的に著者に通知が届きます。校正する箇所がなければ「校了」して文書をこれ以上編集できないようにします。

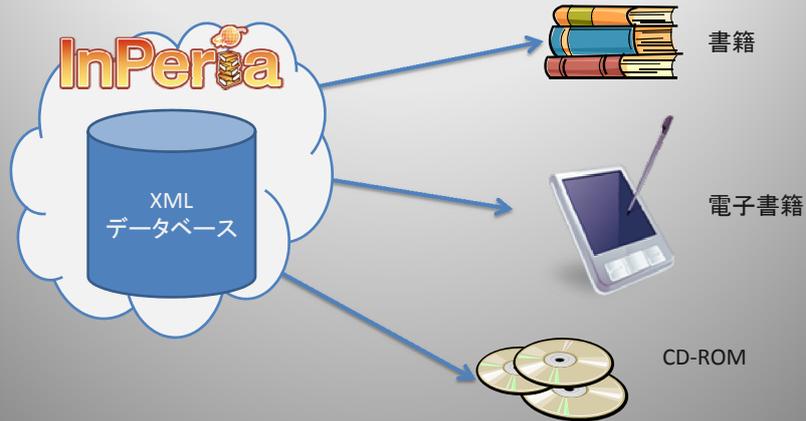


ワークフローの改善(編集者編)



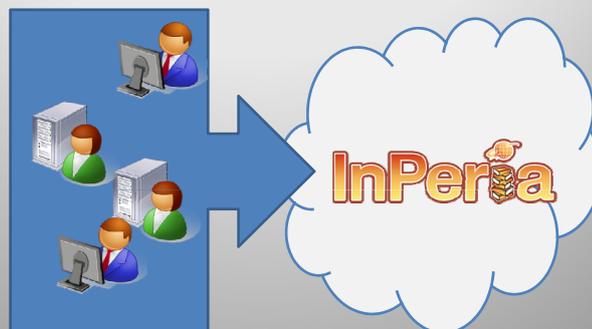
データの2次利用

データはすべてXML形式でデータベースに格納されます。XMLは最も標準化された形式で、様々な用途に応じて変換が可能です。



多人数による同時編集

多人数で一度にデータを入力できます。著者が複数人いる辞書や教科書の制作に向いています。



離れた地理による編集

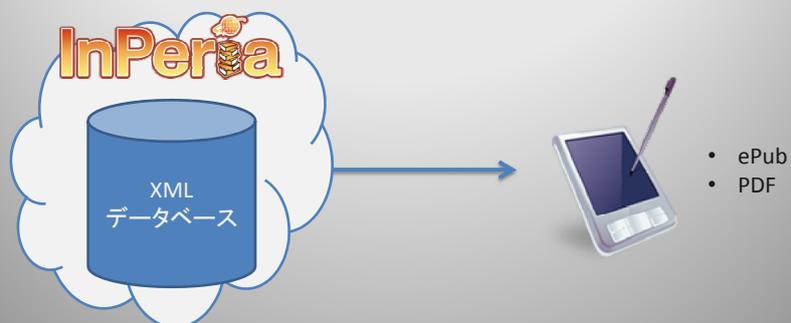
編集はインターネットに接続されていればどこからでも可能です。データの入力をアウトソースした場合でも、データを一元管理できます。



倉敷印刷の電子書籍への取り組み

- EPUB(電子書籍標準化団体IDPF)
アメリカの電子書籍標準化団体「IDPF」が推進するフォーマット。XHTMLとCSS2.1サブセットで表現する。
- XPDF(シャープ)
シャープが開発したフォーマット。PDAや携帯電話で使用されている。
- .book(ポイジャー)
ポイジャーが開発したフォーマット。縦書き、ルビをサポートしていて文学作品に向いている。
- AZW(アマゾン)
アマゾンが開発したキンドル用のフォーマット。Amazon Kindle's Publishing Programを使用するか。変換サーバーでAZWに変換してキンドルで読む。
- PDF(アドビ)
アドビが開発した電子上の文書用のフォーマット。広く普及している。

InPeriaは電子書籍へ出力するための形式として、ePubおよびPDFの出力をサポートします。



EPUB形式

現在電子書籍の形式としてアメリカを中心に広く普及しているフォーマットです。

特徴

- 紙面のサイズを自由に変更できます。
- XHTMLで記述されており、Webデザインのノウハウをそのまま使えます。
- 最も多くの電子書籍端末で採用されています。

問題点

- 縦書きやルビなどの日本語特有の組版ができません。

PDF形式

印刷でも使用できる最も普及しているフォーマットです。

特徴

- 簡単に作成できます。
- 書籍の組版をそのまま表現できます。

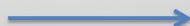
問題点

- 本と同じ紙面で制作した場合、スマートフォンのように小さい端末では読みにくくなります。

DTPからはPDFおよびアプリ形式での出力をサポートします。



DTP



- PDF
- アプリ形式

電子書籍の先にあるもの

電子書籍の普及に伴い、出版物の販売形態が多様化すると見込まれます。出版社様には「本」を売るという考えから、「情報」を売るという視点で販売戦略を練り直していく必要があると考えます。

組版は出力の一形態にすぎない



今後はより多くの出力形態 (HTMLや電子書籍、Webサービスなど) でデータを個別配信できる仕組みを構築していきます。



コンテンツの価値を相乗的に上げる工夫が必要

あらゆる媒体にXHTMLの記述による出力ができるようになることが予想されます。

- ePub : XHTML1.1 + CSS2.1サブセット
- PDF : XHTML1.1 + CSS3拡張
- Web : XHTML1.1 + CSS3

すべて同じ記法を使うことで、電子書籍+Web+紙の書籍との親和性を高めることが可能になります。

ご清聴ありがとうございました。

ご興味がありましたら

ブース **7-42** まで

是非お立ち寄りください。